



国会議事堂前

吉田会長を先頭に、朝9時第一衆議院会館に到着した。私たちは、二通の要望書を持参した。支部の代表が先頭に立ち、会員の苦境を訴えた。要望の一つは、年金・医療・介護の問題である。年金生活者の立場に立って、安心できる社会保障制度にすべきであり、若い世代まで引き継がれること。もう一つの要望は、年金はもうこれ以上の減額を行わない

### 全国大会参加者

会長	吉田 筑三
博多区	力武 暁
糟屋	恵良 周司
朝倉	坂本 忠徳
八幡	村尾 稔
直方	田代 一久
鞍手	森田 茂男
大牟田	治久丸 英文
小郡三井	長野 和夫
門司	河崎 久枝
行橋京都	宇佐見 正孚
事務局長	稲田 瑞穂

場所・日比谷公会堂／開催日・10月24日(金)

平成26年度 日公連全国大会開催

こと。その他、退公連の会員が困っている現状等を訴えた。1時間30分の陳情活動を終え、国会議事堂、議長室等を見学した。

平成26年度全国大会の会場には、4本の垂れ幕が下がっていた。千名余の会員と250名の国会議員の参加で熱気に溢れた。福島、岐阜、山形、沖縄は、組織拡大の表彰を受けた。38年間連続して組織拡大を達成した愛知には大きな拍手が起きた。最後に全員で「故郷」を声高らかに歌い閉会した。

全国大会は、日公連33万人の組織力の誇り、社会を変革する情熱、地域に奉仕する使命、会員を支える連帯意識を強く再認識させられた大会であった。



### 平成26年度 日公連九州地区連絡協議会

6月12日(木)、13日(金)の2日間、佐賀ワシントンホテルプラザにおいて、日公連九州地区連絡協議会が行われ、福岡県退公連からは、吉田会長と稲田事務局長が出席し、活動状況等を報告しました。

今回は日公連理事・専門員の鈴木日出男氏を迎え「超高齢社会の年金制度と日公連・退公連の対応について」と題した講演も行われました。



平成26年度 評議員会

平成26年度評議員会が6月6日(金)、福岡天神センタービルにて行われました。

評議員会では、平成26年度事業、行事報告、決算案等が審議され、全て承認・可決されました。



水落講師による研修会の様子

平成26年度 研修会

7月3日(木)、福岡天神センタービルにて研修会が開催され、各支部から70名が参加しました。

今年度から年金等学習会から、研修会に名称を変更。退公連会員が同じ方向を向くためにも、研修会で学んだことを各支部内でも共有してください。

# 《支部活動紹介》「会員相互の声かけ」を大事に!!

八女支部 黒木班副班長  
片山 輝行



黒木班は会員数30名、班長（八女支部長を兼任）、副班長、7名の世話人がいて、年度末に世話人会、年度はじめに総会を実施している。黒木班のモットーは「会員相互の声かけ」で、今はしっかりと定着している。

退公連の新聞配りで、ある一人暮らしの会員を訪ねた時のことである。夕暮れのある日、激しく口論する声が聞こえてくる。日頃は温和な



八女支部 黒木班のみなさん

女性であり、ただ事ではないと思つて、玄関を開け「どうかされたのですか？」と尋ねた。そこには、30代後半くらいの小太りの男がいたが、近所では見かけない顔だった。地下用水ポンプの修理代請求の件であった。女性会員は「工事は依頼してないのに」と強い口調で訴え、私に助けを求めているようであった。私は直感で「ひよっとしたら詐欺では？」と感じ、事情を確かめてみることにした。女性会員と一緒にポンプを調べたが、ポンプはもちろんそのまわりも工事をしようという形跡は全くなかった。急いで玄関に戻り、小太りの男に確かめようとしたら、軽トラックで急いで立ち去って行った。あまりにも急なトラブルで私も動転しており、車のナンバーを見届けることができなかったことは悔やまれてならないが、この時ほど「会員相互の声かけ」の大切さを実感したことはなかった。



※片山輝行氏の人をひきつける力、気くばり、心くばり、実践力等に感服。ガンとの闘い、闘病生活の身にありながら、よく退公連のために尽くしてくれまます。

八女支部長（兼黒木班班長）

樋口 順一郎

# 《女性部活動紹介》 魅力ある活動で会員増

三潁大川支部 女性部長 坂井 保子



本支部は、福岡県の南部にあり、一級河川の筑後川の流れが有明海に注ぐ筑後平野に位置する。

会員の高齢化は避けられず、行事をしても参加者は限られてくる。私も退職して10年目を迎えている。この10年の間に随分変わってきたと思う。予算もあつたし、参加者も多かった。

現在、支部の活動としては、年1回の総会と日帰り旅行をしている。一昨年の日帰り旅行では、大牟田の万田坑、旧三井港倶楽部を見学した。昨年は佐賀の浜玉町へ行き、途中で村田英雄記念館を見学した。今年には玉名温泉と田原坂の記念館を見学する予定。楽しみにしている。

6月14日（土）には総会を行い15名が参加した。その後、退職公務員連盟の顧問である水落常人先生に年金制度の経緯や相続と相続税のこと、確定申告の大切さや、遺言書の書き方と多岐にわたりご指導いただき、充実した時間を過ごすことができた。

続いて、同じ会員の元中学校の体育の先生を講師に、きよしのズンドコ節や、青い山脈の歌声に合わせて手足を動かして体をほぐしたり、転倒予防の運動をしたりして、仲良く楽しいレクリエーションの時を過ごした。また年度変わりの時には、昼食をともにして親睦を深めている。

今後は退職した人が気持ちよく会員になれるような魅力をどう高めていくかが課題である。



総会の様子

# 新女性部長紹介



小郡三井支部  
中垣 貴和子

小郡三井支部の女性は約50名で、その中で90歳以上は3名、80歳以上は22名です。春、秋の年2回会合を開き、地域との関わり方を話し合います。

### ◆全国研修会提出レポート

#### 苦悩する支部運営

小郡三井支部 支部長 帆足 徳男

##### 組織拡充

我が支部は会員の大半が教職員退職者だ。現職の頃は何かと繋がりが深く、先輩後輩としての関係であったりしたが、退職し時間の経過とともに縁が薄れ、繋がりがもろくなってきた。勧誘するには現職時代の親しい関係(同じ職場だった等)を伝手をお願いして入会を勧めているのが現状だ。入会者で「退公連の意味」を理解して入会するところについてはほとんどあり得ない(義理で、自分もついていた)。

### 組織確立の取り組み

大牟田支部 支部長 永井 暢一



6月25日の退職公務員新聞の「ラム」退公連ノート」を見ると、次のような記事があった。

4月はじめ日公連組織委員

員会での発言。「会員増の決め手は、本気になってやるかどうかだ」期せずして37年間会員増の愛知県と、昨年会員増達成の山形県の委員の発言ゆえ重みがある。記事では、愛知県と山形県の組織拡大への取り組み状況を簡潔に、しかも分かりやすく紹介され、大変努力されている様子がよく分かった。おおいに参考になる内容であった。

さて、わが大牟田支部も僅かであるが、毎年会員増で表彰を受けている。特に「組織拡大」に力を入れている訳ではない。むしろ「組織確立」に力を入れている。

昨年度、雪崩現象的に会員が減少した。原因は定かでないが、考えられる理由として、世話人(女性事務局長)が交代したのを機に退会、メリットがなくなった(年金制度の一元化)改善、会費が惜しい、高齢化、病気のため等々が考えられる。

今回のような大幅な減少は過去にもあったといつ。それは、校区へのみの退会という形で表れた。一人の発言力(有力な)のある会員の軽はずみな発言・行動が、消極的な会員の思いをさらに後押しした。雪崩現象的に脱退という形で表れて当時の会費が半減したといつ。今回の退会はその若手意味は異なるが、ただ漫然と年会費(千円〜二千円)を払っているのが「捨て銭」ばかりといつと思えたのかも知れない。このような現象を一度とせないうためにも、口頭からの会員同士の横の繋がりが

次に組織拡大に繋がるかどうか分からないが、支部の主な取り組みを3点ほど紹介する。

1 校長・教頭は全員退公連の準会員に加入させ、退公連の一員としての自覚を持たせる。日頃から支部役員と交流する。年度はじめの4月の校長会・教頭会で、支部長が退公連の活動状況を説明する。準会員会費年500円徴収。

2 本市の文化会館において、毎年9月敬老表彰式をする。そこで支部独自に卒寿90歳、傘寿80歳の会員を表彰し、寿詞、清酒、図書カードを贈呈し、会員1回ずつ祝賀する。

3 班長が退公連新聞を班員宅に届けの際に、班員の近況に問題があれば、支部役員に通知する。役員会へ対応する。班長は班員が総会・懇親会に参加するよう極力勧める。その他、退職者で退公連未加入者が班内にいたら加入を勧める。加入困難な場合は役員で対策を検討する。以上の様にして、班長を中心に退公連の会員としての自覚を持って行動すれば、立派に組織は確立できると思いつ。

連携と学習が必要と感じた。

現在、我が支部では年間活動としては4月〜5月に定期総会を実施している。そこでは、退公連の意義を確認したり日公連活動等の報告をして、組織の存在が現在の私たちの生活を支えている、連帯の大切さを再確認している(数年前から)。

また、総会終了後には、会食会を取り入れたり医療関係の保険会社の説明等を加えながら工夫をしているが、参加者は少数であまり盛り上がりはない(役員と数名の会員のみのみ)。その他、年間数回の役員会を実施し会の運営や情報交換を行っている(最近、会計監査と活動費支給について協議する)。平成25年度より支部独自の会報を年2回発行している。県連の2回発行とダブルなように配慮し「会長のあいさつ・年金や福祉

### 会員増へ向けての試行錯誤

飯塚支部 支部長 吉松 利文



去る7月3日(木)、「県連研修会」が開催され、会員増で表彰された3支部が経緯を述べました。以下は飯塚支部の内容を文章化したものです。

#### 1 現状

87名の小規模支部です。昨年度から物故者4名、施設への入居者1名の減です。幸い退会者は0名です。

#### 2 対策と活動

(一) 2種類のプリント(用紙)を作成しています。①「退公連加入届」を各種同窓会、自治会イベント等々に日常的に携行しています。支部総会では参加者全員に配布して、お一人お一人に会員増へ向けて動いて頂くようお願いしました。②「会費納入願」、班長さんが1名

関係の近況(新聞記事等よりの抜粋)・会員同士の情報交換・会員の作品紹介等」を記載している。今後は、もっと内容を工夫をし、会報を通じて会員相互の繋がりを強めていきたい。

今後は、親睦のための小旅行等を計画実施し、先ずお互いを知る、ことをモットーに地道な取り組みを行ってきたい。

最後に、私たち退職教職員には「退職教員組合」や「退職互助会」の組織がある。それぞれ組織構成や活動内容・意義は異なるが会費がかさむ悩みがある。このことが我が退公連に加入するネック・障害になっているとも考えられる。要は魅力ある組織づくりをどうするかが今後の課題である。今年度、役員顔ぶれも変わったので、先輩の方々の知恵を拝借して前向きに進めていきたい。

他界され後任の選出で苦慮しています。その対策として、現状を述べた私文書的なものを捺印して送付しました。ご理解をいただき成功しました。

(ロ) 賀寿表彰の方々へ県連よりの表彰状・記念品と支部よりの金一封を訪問して贈呈しています。「ミニレターション」を通じての連帯感が醸成されたように思っています。

(ハ) 校長会の協力を得て、3月末に役員数名と退職事務の引き継ぎ中に訪問して、快く4名の加入届を頂きました。

#### 3 原点に立ち返る(心の支え)

「われらの信条(理想的な日本公務員制度の確立)―現職(後輩)の方々の不安、動揺は想像以上です。公務員は国家の血液であり礎です。理想的な公務員制度の確立は退公連活動なくしてはあり得ません。そう思つ時、元気が出ます。各支部でも大変な努力をななつて頂きたい。今後県本部のご指導のもと頑張ります。

# 日本退職公務員連盟 平成26年度 全国大会に参加して

## 熱気に溢れる全国大会



八幡支部  
支部長 村尾 稔

すぐ真下に首相官邸の玄関口が見えた第一議員会館9階の三原議員の部屋への訪問を皮切りに、私たち代表団は議員会館内の福岡県選出の衆議院議員の部屋を回り、それぞれ当該区の者が、お願いの口上を述べ直接要望書を手渡ししました。鳩山邦夫議員など数人の議員の他は秘書の方に手渡すことになりましたが、ごなたも気持ちよく受けてくださり、国会の情勢や年金問題などについて話し合うこともできました。

議員会館と国会議事堂とは地下道で結ばれていました。私たちは雲一つない秋晴れの中、国会議事堂を仰ぎ見、またその中を見学した後、日本退職公務員連盟の全国大会会場である設立85年になる日比谷公会堂に向かいました。

大会は、全国各地から千人余の参加者が集まった中、伊吹衆議院議長や海江田議員をはじめ数十人におよぶ国会議員の方々の来訪を受けて開催され、力強い基調提案と決議で締めくくられました。退公連の存在意義と伝統を改めて強く感じさせられた一日でした。

## 地区代表の大きな責任



糟屋支部  
支部長 恵良 周司

日公連全国大会に出席し、併せてこの機会に国会議員会館ビルで、めばしい国会議員の部屋を訪ね、退公連組織を代表しての陳情をした。

この陳情は全員で隊列を組んで行ったが、要望書を手渡すものは交替で分担した。それは無作為の割り振りではなく、各国会議員の選挙区を意識・考慮して分担され、私は糟屋区の住民として福岡4区選出の宮内秀樹議員（自由民主党）に接することになった。

事前説明の場で、当日の服装は背広ネクタイとし、住所を明記した名刺を必ず持参すべきである旨の話があった。退公連という歴史ある組織の代表から陳情を受け、名刺とともに陳情書を手渡される国会議員にとつて、自分が選出された地域名が印刷された1枚の名刺がいかに重い物なのか、思えばそれは極めて自明のことであった。陳情書を手渡し、私はこの事業に関する最低限の責任を果たし、ホツとした次第である。

## 東京へ



大牟田支部  
事務局次長  
治久丸 英文

2年ぶりの東京。羽田に降り立ったときは小雨で、気温14度。少し肌寒かった。東京在住の娘に会いたかったが我慢した。幸運なことに、宿泊先の「ふくおか会館」前で皇太子殿下の乗られた車と遭遇し、お顔を拝見することができた。夜は懇親会。鳩山邦夫議員をはじめ、福岡県選出の国会議員諸氏と名刺交換。楽しかった。

翌日は、国会議員会館へ向けて、皆で歩いて行く。麻生太郎議員の部屋の壁に大久保利通公の大きな写真が飾られているのには、ちよつと驚いた。陳情も無事終わり、その後は国会議事堂の見学。豪華で威厳があり、少し圧倒された感じだった。午後は全国大会へ参加。来賓の伊吹文明衆議院議長のあいさつは秀逸だった。そして、今回の東京行きで最大の収穫は秋山弘子氏の講演。今後の自分の生き方を考える上で多くの示唆を得ることができた。結びに、お世話いただいた吉田会長と稲田事務局長に心から感謝申し上げたい。

## 感じたこと得たもの



門司支部  
河崎 久枝

10月23日（木）16時、福岡県退公連各支部代表役員12名が「ふくおか会館」に集合。情報交換会では、鳩山邦夫議員と歓談ができて良かった。

10月24日（金）9時、国会議員会館へ行き陳情書を渡し、重ねて要望の主旨徹底をお願いした。議員や秘書の方々は、誠実に対応してくださって大変心強く感じた。

13時、日比谷公会堂は、千名を超す参加者の熱気で満ちていた。大会は物語者への黙とうから始まり、日公連の歌を高らかに歌った。歌詞の重みをひしひしと感じた。次々と多くの国会議員が拍手で紹介され、熱気に溢れる中、基調提言、決議文の朗読、記念講演と進行し、最後に全員で歌った「故郷」は心にジーンとくるものがあった。2日間を通して退公連の存在の偉大さを実感し、この機会を与えてくださった支部に感謝しながら会場を後にした。

大会に参加して、退公連の陳情の妥当性、必要性を強く確信し、今後の地域活動の進展に微力ながら尽くしていきたいと思った。